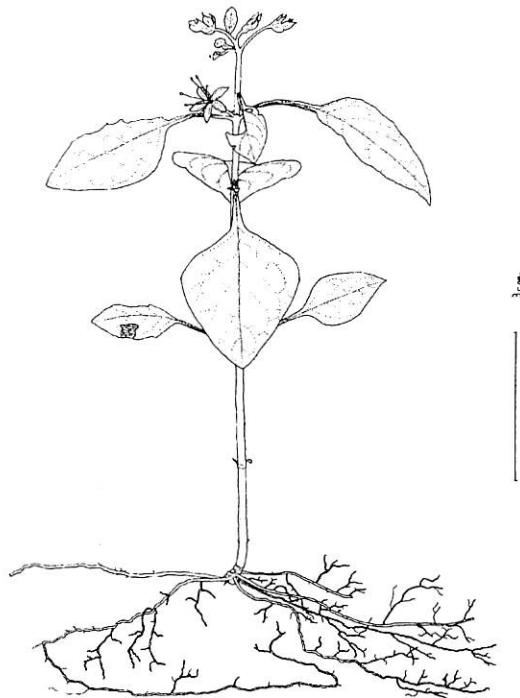


協議会ニュース 129号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2010.8



イラスト：シロバナイナモリソウ（岡田慶範／西三河支部）

あいちの自然観察会レポート 西三河支部	石川正雄P2	
"	名古屋支部	石原則義P3
"	尾張支部	齋竹善行P4
"	奥三河支部	小山舜二P5
"	知多支部	森田博文P6
支部総会報告	東三河支部	星野芳彦P7
あいち自然ネット総会報告	尾張支部	吉田雅紀P8
会員のページ	知多支部	中井三徳美P9
理事会報告・事務局より	P10 ~11	
行事案内・編集部	P12	

あいちの自然観察会 「矢作川の自然にふれてみよう」

水辺の植生の観察、水の中の生きもの観察

観察会の準備と実施レポート

西三河支部 石川正雄

日時：4月 25日（日）9:30～12:00

場所：岡崎市 矢作橋下流河川敷

参加者：28名（含なごや環境大学参加者 20名）

指導員：6名

今回の観察会はあいちの自然観察会のひとつとして行うばかりでなく、なごや環境大学の講座のひとつとして、名古屋市から一般の方も 20名参加するという観察会となった。そこで私たちの準備は、まず交通の便も良く、なおかつ西三河地域の自然が象徴されるような場所を選ぶことから始まった。西三河の中心を南北に流れる矢作川河川敷を選び、周辺の岡崎・八丁味噌の味噌蔵なども見学してもらうコースを選んだことは正解だった。

しかし実際下見をしてみると、肝心の観察対象である魚類がこの時期なかなか捕獲できないことが判明。地形的にもこの場所はあまり豊富な魚相が観察できる場所とは言いがたい。そのあたりをどう工夫して面白い観察会にするかが悩みどころだった。

方法としては、まず矢作川の歴史やそれを取り巻く自然環境、周辺の産業などをまとめた小冊子形式の資料を作成した。矢作川の名前の由来、矢作橋の歴史、そして「矢作川方式」と呼ばれる全国に先駆けた開発の仕組みなど、調べていくうちに私たちにも大変勉強になった。

当日は投網の実施、河川敷のバードウォッチング、ヤナギをはじめとする植生の観察など、動植物を総合して観察するようさまざまな工夫を凝らした。また、4月といえかなり陽射しが強く暑い日になることが予想されたため、日除けタープも設置して参加者に快適に過ごしてもらえるよう心がけた。

現流域から河口まで多様な自然を抱え、西三河の象徴的な存在といえる矢作川。この川の恩恵をずっと次世代にも引き継ぎたい。そういう思いを参加者に抱かせてくれる観察会になったかはわからないが、主催した私たちとしてはその思いを共有できたような気がする。



あいの自然観察会

庄内川の生き物を調べてみよう

名古屋支部 石原則義

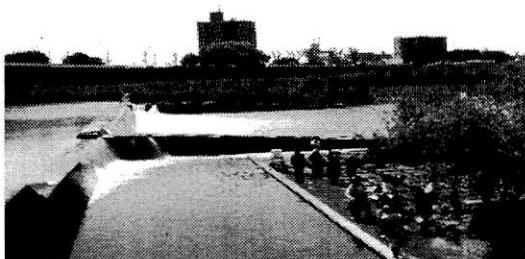
日時 5月9日(日) 9:30~12:00
 場所 庄内川
 参加者 21名
 指導員 12名

庄内川は、岐阜県では土岐川と呼ばれ、その源は、岐阜県恵那市の夕立山(標高727m)に発し、岐阜県東濃地方の盆地を貫流し、濃尾平野を南下して伊勢湾に注ぐ一級河川である。流域面積は1,010km²。幹線流路延長は96kmである。庄内川には、魚道が三つあり、その一つ最下流の西区庄内橋下右岸の魚道の観察を5月9日試みることにした。今年は例年になく水が冷たく、5月の調査(矢田・庄内川をきれいにする会)では、2匹(昨年は800匹)のアユの遡上しか確認されなかった。私たちはどうかというと、浅井指導員を先頭に魚道の水の流れを止めていただいたものの、魚道内では、ウキゴリ1匹しか確認できなかった。折角子どもたちに、どんな魚が上がるのかを見せたかったが残念。

過去の魚道調査では、魚道内に、ウナギ、アユ、オイカワ、タモロコ、スゴモロコ属、コイ、ボラ、スズキ、オオクチバス、ヨシノボリ類、マハゼ、カジカの仲間(カマキリ)、テナガエビ属、モクズガニが確認されている。

今回は急遽、ガサガサをすることにした。ガサガサで取れた魚類は、カマツカ、ウキゴリ(絶滅危惧II類)、ウナギ、メダカ(絶滅危惧II類)、カワアナゴ(絶滅危惧II類)、ヌマチチブ、ブルーギル、甲殻類としては、ヌマエビ、スジエビ(今回の講師の、名城大学理工学部環境創造学科の谷口義則准教授によると魚の赤ちゃんの大変なエサ)、他にはクサガメだった。

ガサガサを知らない子にタモの手ほどきをしたら、魚が獲れたので喜んでいた。



▲「庄内川橋下右岸の魚道」撮影：布目均



▲「ガサガサ」 撮影：滝田久憲

あいの自然観察会 木曽三川公園で自然発見をしよう！

尾張支部 斎竹善行

日時 5月30日（日）10:00～12:00

場所 木曽川（一宮市・138タワーパーク周辺）

参加者 受講者19人 指導員（尾張支部）10名

今年は「水辺の自然ウォッチング」を統一テーマに、「なごや環境大学」の共育講座として6支部でそれぞれ開催することになりました。尾張支部は水道用水などとして私たちの生活に密接に関わっている木曽川をとりあげました。公共交通機関で参加でき、川に入って水生生物を探せる場所ということでこの場所を選び、テーマは「木曽三川公園で自然発見をしよう」と設定しました。



内容は①木曽川の概要と開催場所である三派川地区の説明、②カワラサイコなど「カワラ」という名が付く川原の植物探しとそれら川原の植物の特徴の説明、③魚や水生昆虫など川の中の生き物探しの3点とし、1週間前の5月23日に雨の中で下見を行いました。

5月26日の中日新聞で行事紹介もありましたが、定員20名とした観察会参加者（受講者）が、実際に当日何名来てくれるかが心配でした。開始時になって、事前の申込みで名古屋から電車・バスを乗り継いできたメンバーに加え、インターナショナルで現地参加した高校生4名と一般参加2名を加え、19名の参加で、ほぼ定員枠に近くになりました。

川原を歩いているとホトトギスの鳴き声が聞かれ、芝生を歩くヒバリの姿も見られ、クワの黒く色づいた実を味わうこともできました。また、公園のビオトープで増えたフナなどを木曽川に放流するところに遭遇し、フナやカワバタモロコが間近に見られました。

川原の植物では、カワラサイコ、カワラマツバ、カワラヨモギ、アカメヤナギ、オニグルミ、ツルヨシなどを観察しました。

川の中の生き物探しでは1時間弱という短い時間でしたが、石をひっくり返したり、タモで探ったりして楽しました。多くの目で探すといろいろ出てくるもので、ドジョウ sp、ナマズ稚魚、ヌマエビ、ヒラタカゲロウ sp、ヤゴ、トビケラ sp、ヒラタドロムシ、ヨコエビ sp、ヒル sp、ミズムシ、サカマキガイなどが捕まりました。



今回の観察会は定例観察会のない一宮地区での開催のため、その辺にお住まいの会員にできるだけ指導に当たっていただけるよう配慮しました。何年ぶりかに支部の観察会に来ていただいた方や遠方から指導に駆けつけてくださった方もあり、指導員の久しぶりの顔合わせにもなりました。

あいの自然観察会

寒狭川で自然体験をしよう

奥三河支部 小山 舜二

日時 6月27日(日) 10:30~15:00

場所 豊川 寒狭峠

参加者 19名

指導員 10名

寒狭峠を主題の観察会は、入梅時期で増水、降雨が避けられなく、非常に危険が伴う場所であるため、一週間前に会員による念入りな下見を行い、コース、安全対策を協議、それぞれの役割分担を行った。



▲水しぶきを浴びての観察会

新城総合公園に集まった参加者に、本日は雨模様でコースが岩場であること、起伏が激しい道中であることから観察点における行動は「一步退いて」、「冒険は慎むよう」などの注意事項を説明。観察コース(①~⑥)に向か、出発した。

- ① 花の木ダム 別名「東洋のナイアガラ」とも呼ばれ、当日は40トン/秒の大瀑布に参加者のど肝を抜いた。
- ② いろは池 花の木公園として知られ、周辺全体にポットホールが展開する。
- ③ 鮎滝 伝統漁法の笠網漁で知られる。(写真参照) また、この付近は新城石英閃緑岩の河床で成り立っている。
- ④ 猿橋 川幅4m弱の狭まれた急流に群れる鮎漁「びんこ釣り」が知られる。この時期、「サツキマス」の遡上も見られる。
- ⑤ 長篠発電所 電力王福沢桃助がナイアガラ発電方式を我が国で最初に導入したことで知られる。
- ⑥ 宮渕 寒狭川では最大級の渕で、回遊型のウグイの大群がみられる。また、その頭に水深9mの最大水深を誇る川底がある。

今回の観察会は、奇岩、名所が連なる寒狭峠めぐりで、その、ひとつ一つが伝統・伝承文化遺産であり、歴史遺産でもある。比較的知名度の低い、この、渓谷めぐりに、参加者は肝を冷やしたり、感動したりの連続で、不満はなかったことと思われたが、無事、終了したことに安堵しことも事実であった。

あいの自然観察会 奥田海岸で干潟の生き物を探そう

知多支部 森田博文

日時 7月11日（日）9:30～11:40

場所 知多郡美浜町山王川河口及び奥田海岸干潟

参加者 10名

指導員 6名

空は暗く、時折小雨バラつき、いつ本降りになってしまふかしくない状況、参加しようと来て下さった親子も「子どもを雨に打たせたくない」と帰って行きました。そんな時滝田指導員が名古屋からの参加者を8名引率して来て下さいました。



次に広々とした干潟に出ました。ここは、木曾・揖斐・長良の三大河川と山王川が運んだ砂で遠浅になったところです。

浅瀬や潮だまりには、マメコブシガニがたくさんいました。このカニは横歩きだけでなく、前歩きも上手です。写真は雄が雌を抱えて歩いているところですが、交尾ではありません。カニの仲間は体の構造上、向かい合いでないと交尾できません。これは交尾の前段階といったところです。

砂に体の大半を埋めて、獲物を待つダイコンイソギンチャクも見つかりました。強力な鉄脚を持つ、危険なイシガニは大漁でした。

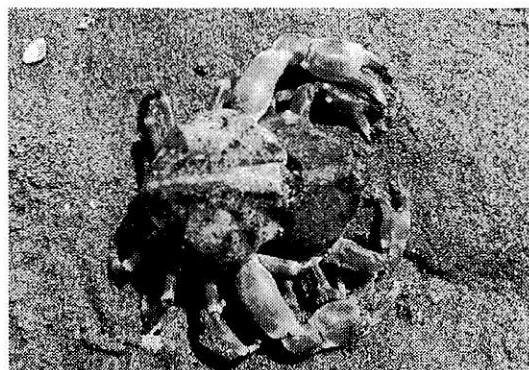
この他、干潟ではニホンスナモグリ、スジホシムシ、ミサキギボシムシなど、浅瀬ではヒメハゼ、イソギンポ、チチブ、アゴハゼ、幼魚としてギマ、メジナ、ボラ、クサフグ、マツダイを採集しました。山王川河口の防波堤では、多くの磯の生き物を観察しました。

時折雨が降りつける中、あいの自然観察会を企画・立案・運営する滝田指導員の好リード、熱心な参加者の皆さん、知多支部スタッフの協力で、大変よい観察会が出来ました。

まずは山王川河口の中、ここは6種のカニが確認されています。中でもおびただしい数のチゴガニが盛んに白い手（鉄脚）上げ下げしているのは壯觀です。雄の雌に対する求愛行動といわれます。さしづめ婚活体操というところでどうでしょうか。

タカノケフサイソガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニもいました。

ウミニナ・ヘナタリの仲間、マガキ、ソトオリガイなど貝類もたくさん見つかりました。



東三河支部(NPO 法人東三河自然観察会)第 8 期定時通常総会の報告

東三河支部 星野 芳彦

去る 2 月 20 日(土)、豊橋駅西にある「パークホテル吉祥閣」において当支部の第 8 期定時通常総会(NPO 法人の為、仰々しい名称となる)を開催しました。

当会は、NACS-J の自然観察指導員でない方も会員で、今年度総会員数 89 名になりました。会場へは 37 名の出席があり、事前に郵送された 30 名分の委任状と合わせ参加 67 名に相当して会は成立しました。

開会にあたり、会員の稻垣隆司前愛知県副知事から今年の BIG EVENT である生物多様性条約 COP10 の内容と、関連して行われる国際美術展あいちトリエンナーレ 2010 の解説があり、2010 年がいつもと違う一年なのだと実感しました。

私も美術館で学芸員やボランティアの方の作品解説を受ける機会があります。そんな時、自然と美術作品といった違いこそあれ、インテープリターの極意をいろいろと勉強できます。みなさんも一度最寄りの美術館に足をお運びください。

議事は 2009 年度の事業実施報告から始まり、定例観察会、地域観察会、自然環境調査事業、情報発信、会員研修の各担当理事から報告がありました。その後、予算執行・会員入退の議事と続き、すべての議事が可決され前半が終了。

後半は、2010 年度の事業計画に関する議事が中心となりました。満場一致で可決された今年度の主な事業を紹介します。なお、当会の事業は COP10 支援パートナーシップ事業として申請しました。

(1) 地域自然観察会(東三河 4 市で一回ずつ 4 回実施 ()内は観察会の主テーマ)

- ① 6 月 6 日 豊橋市 正宗寺(鎮守の森)→ 全国一斉観察会
- ② 8 月 22 日 蒲郡市 竹島 (海岸生物や暖帯林)
- ③ 10 月 24 日 豊川市 財賀寺(お寺の森の秋)
- ④ 12 月 5 日 田原市 緑が浜(汐川干潟)(冬の渡り鳥)+芋煮会(会員の親睦会)

(2) 定例観察会(東三河自然環境ネット観察会、環境省生物多様性保全推進事業)

豊橋公園と豊川河畔林周辺で 4 月～12 月 毎月第 2 日曜 9:30～12:00

(3) 県営東三河ふるさと公園観察会(豊川市 御油町)

1 月～12 月 毎月第 3 日曜 9:30～12:00

(3) 県営新城総合公園自然観察会(新城市)

4 月 25 日、7 月 25 日、11 月 7 日、2 月 13 日 9:30～12:00

(5) 自治体その他への講師派遣

(6) 平成 22 年度渥美半島エコツアー(田原市観光協会主催)、西の浜松林モニタリング調査などの調査・業務受託

(7) 木曽路方面への宿泊研修をはじめとする会員研修

議事終了後、会員の原田文夫さんから「東北の山々歩き」というタイトルでスライドを交えた高山に咲く花々のお話を伺い、参加者の心は街から大自然に飛び出しましたようでした。

今年もフィールドでどんな体験ができるかワクワクしています。他支部のみなさんも是非私どもの観察会にお越しください。詳しくは当会 HP でどうぞ。



あいち自然環境団体・施設連絡協議会(あいち自然ネット)定期総会

尾張支部 吉田 雅紀

4月25日海上の森センターで平成22年度の定期総会を開催した。登録会員45団体中、19団体が出席し、愛知県自然観察指導員連絡協議会から大谷副会長、尾張支部から私が出席した。

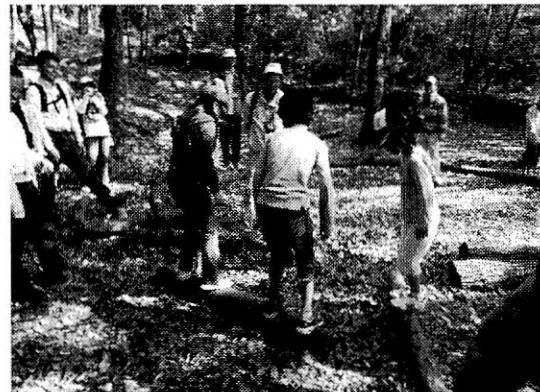
総会の冒頭で、宮永正義会長は「COP10開催を10月に控え、今年度は極めて重要な年、あいち自然ネットの役割は大きい」などとあいさつされた。平成21年度の活動報告・決算、平成22年度の事業計画・予算、規約改正等が承認、そして役員改選が行われ、新役員に、一般社団法人 平針里山保全協議会の宗宮弘明代表(元名古屋大学名誉教授)が選任された。総会の最後に会長から「今は何かを聞いてくれる時代、だからこそこの会を有効に活用していきたい…」という趣旨の言葉で結んだ。

午後からは、会員と一般参加20名が参加して、「海上の森・いきものつながり体感ツアー」を行った。自然観察会やフィールドアスレチック、ネイチャーゲーム「かさね色」を行い、新緑の森を楽しんだ。

夕方からは、合掌造りの古民家(名古屋文化短大みなみやま学舎)に場所を移し、懇親会。宮崎喜一氏の美味しい手料理を食べながら、囲炉裏を囲み、異なったフィールドで活動している会員が、お互い大いに語り合い、交流を深め、あつという間の楽しい時間を過ごした。

平成22年度事業計画

●運営会議 原則2カ月に1回 ●海上の森・いきものつながり体感ツアー(定期総会併催)4月25日 ●子ども自然教室“いきものたんけん隊”平成22年7月下旬~8月末のうちの4日間・第4回人と自然の共生フォーラム“ポスターセッション”10月16日、17日(予定)●生物多様性各種イベント出店(モリコロパーク等)・愛・地球博記念公園 公園マネジメント会議 等



■「あいち自然ネット(正式名称=あいち自然環境団体・施設連絡協議会)」は、平成19年12月22日に設立。愛知県内の自然環境団体・施設が自主的に活動する連絡協議会。2005愛・地球博(愛知万博)開催を機に高まった環境に対する意識を末永く継承・発展させて行くと共に、森林や里山に関する学習と交流の拠点として設立された「あいち海上の森センター」を有効に利用し、同様の趣旨目的を持った施設や団体と相互に情報を交換し、交流を盛んにすることを目指しています。設立当初から、協議会や尾張自然観察会は、会員として登録。

女性自然観察指導員シリーズ その③



みすみ
中井三従美

自然観察指導員
地域環境保全委員
地球温暖化防止
活動推進委員

自然観察指導員：身近な自然の案内人
地域環境保全委員：市内を巡回し環境の
変化を調査
地球温暖化防止活動推進委員：「ストップ
温暖化教室」、CO₂削減など小学校へ
出張講座

1 環境に関する活動にチャレンジした 動機・きっかけ

若い頃より高山植物に興味があった。子育ての頃、近くの田んぼや畑、海岸に遊びに出た時子どもより親が夢中になった。そんな時私の目線を変える本に出会い、“足元にも自然がいっぱい”に気付いた。

知多半島の丘陵地は昔から水不足で、ため池が多く築かれその周辺には湿地がある。自宅近くには海も…。それは私にとって“自然の宝庫”であった。

1987年 常滑市鬼崎海岸で幻の海浜
植物を発見

1989年 東海市の水路の水草を調査。
水質改善と悪化（洗剤抑制、
水きりネットの効果）

1995・2005・2008年

常滑市鬼崎海岸にアカウミガメ産卵と放流など私が見てきたことが、マスコミに取り上げられた事も励みになった。

2 どのようにスキルアップしたか

- ・身近な観察会に多く参加する。
- ・自然に関する研究会に入会し、会報、文献、論文などを入手。研究会の研修、交流会に参加し指導を受ける。
- ・環境保全や温暖化防止活動の研修会に積極的に参加する。

3 これからチャレンジする女性への アドバイス

人は必ず何かをしたいと思っている。
少しでも関心のあることについて情報収集をする。

自分がもっと知りたいと思うものを覗いてみる。やってみる。

そこで友人ができれば…。



第2回理事会

日 時：平成22年5月5日(水・祝) 13:00～16:30

場 所：なごやN P Oセンター集会室

出席者：松尾、降幡、大谷、浅井、石原、近藤、石田、辻、永田、森田、石川、
吉田(雅)、布目、齋竹、滝田、三田、河江

議題1 平成22年度 業務について

- ・日本自然保護協会との連絡先は浅井宅ではなく、当面会長宅が事務所。
- ・保険については支払済み。納金については、今のところ8割にとどまっている。名簿管理は最大400名である。

議題2 協議会規約の見直しは、当面予定なし。

議題3 COP10 観察会、秋、冬、春、夏の観察会の活動報告

報告書(エクセル)様式を、事務局から支部長に送付。さらに支部長から各観察会に送付。

議題4 COP10 発表・交流事業について・・・担当：石川

議題5 第三回理事会 9/23 開催場所・・・・・・西三河担当(刈谷)

第四回理事会 11/23 開催場所・・・・・・知多担当(未)

フォローアップ研修会 1/29～30 or 2/8～9

※次号No.130 12月号にて詳細をお知らせします。

◎編集担当：近藤より

- ・平成22年度「協議会ニュース」発行について、資料にて提案。
- ・表紙(イラストor写真他)の来年度の候補者があれば自薦他薦問わず受付中。

◎尾張支部と名古屋支部の合同研修会について

- ・12/23の日程で愛西市or犬山市にて開催予定 (記録 石原)

臨時理事会

日時：平成22年7月24日(土) 14:00～16:00

場所：名古屋市音楽プラザ 第1控室(3F)

出席者：松尾、大谷、浅井、石原、森田、石川、吉田、齋竹、滝田、三田、河江

■COP10(10月開催)に向けて話し合い決定した。

議題1. COP10 交流事業

① 愛・地球博公園・大芝生広場におけるブース出展(3.6×2.7m)(展示担当：石川)

日時：10/9(土)	10:00～16:00	担当(予定)	西三河・尾張
10/10(日)	10:00～16:00	担当(予定)	知多・尾張
10/16(土)	10:00～16:00	担当(予定)	名古屋
10/17(日)	10:00～16:00	担当(予定)	知多・西三河
10/23(土)	10:00～16:00	担当(予定)	名古屋
10/24(日)	10:00～16:00	担当(予定)	知多

内容：各支部で、ドングリ、オナモミダーツ、丸太切りペンダント、ストーンペイント、竹細工などを企画する。協議会紹介のパネル展示、パンフレットの配布、刊行物の配布

② 愛・地球博公園・大芝生広場におけるステージ発表（担当：浅井）

日時：10/9・10・16・17・23・24（いずれも土日）10:00～16:00の間の10～20分間

内容：COP10にむけて協議会からのメッセージとPR

③ 愛・地球博公園・地球市民交流センターにおけるパネル展示（担当：石川）

日時：10/9（土）～10/29（金）

内容：地球市民交流センター内に、観察会開催記録と絵画・写真などの作品を展示

【補足1】会員のみなさま ★ブースでのパネル・クラフト展示、★発表での“地球生き物会議へのメッセージ” ★パネル展示できる資料の提供についてご協力をよろしくお願ひいたします。 → 下記参照

議題2. 生物多様性交流フェア

■COP10本会議場でのブース出展（担当：大谷、吉田、松尾）

出展内容：自然観察会活動を通して、「残したい景観とは何か」を提起。

10/17(日) 15:00～18:00 搬入・設営

10/18(月)～22(金) 9:30～18:30 展示・解説

10/23(土)～24(日) 10:00～16:00 展示・解説

10/25(月)～28(木) 9:30～18:30 展示・解説

10/29(金) 9:30～15:00 展示・解説 15:30～16:30 搬出

出展場所：熱田会場A-1（第1大テント）熱田球場南隣の運動グランド

【補足2】運搬や設営に述べ最低37名分の人員が必要です。会期中に来場予定の方は、ぜひ解説員をお願いします。また会員のみなさま、残したい風景、外来種の風景の写真をお寄せ下さい。 → 下記参照

議題3. COP10観察会（秋の観察会・冬の観察会・春の観察会・夏の観察会）の報告について

まとまり次第、報告書送付 → 送付先：大谷

＜連絡窓口＞ 8/16までに浅井 TEL (052) 701-1552又は sky-asai@earth.ocn.ne.jp
(記録 浅井)

＜＜ 事務局より >>

■今回の同封資料 リーフレット「野外に放さないで！」

愛知県では、「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」において、生態系に著しく悪影響を及ぼすおそれのある移入種を選定し公表するという規定を設けています。公表候補種の選定にあたっては、協議会としても、会員へのアンケート調査に協力したところです。

県では、淡水域（水辺）における公表種を決定し、移入種をこれ以上増やさないようにするために、幅広い情報提供が必要という観点からリーフレットを作成されました。

私たち自然観察指導員としては、公表された種に限らず、飼育種などをみだりに野外へ放つことは自然界への脅威となるおそれがあることを観察会などいろいろな機会に伝えていきたいと思います。

（事務局 浅井）

<<< 行事案内 >>>

COP10開催に伴う事業を下記の通り実施します。

本誌p10~11の理事会報告に目を通し、協力可能な方は事務局の浅井まで連絡ください。

■交流事業 → 会場:愛・地球博公園・大芝生広場

- ① ブース出展
- ② ステージ発表
- ③ パネル展示

■COP10本会議場でのブース出展 → 会場:熱田会場

■協議会の日=尾張支部・名古屋支部の合同研修会と同時開催

◆日時 12月23日(木・祝)

集合時間 9:30

集合場所 名鉄「犬山遊園」駅前

テーマ 「木曽川の冬鳥」

内容 午前中は駅から扶桑緑地まで木曽川沿をゆっくり歩きながら野鳥を観察 その他については、目下検討中です。

「協議会ニュース」12月号に詳細を掲載予定。

■研修会

◆日時 10月30日(土) 東三河支部と奥三河支部の合同研修会

場所 キララの森 段戸裏谷

テーマ 秋のキララの森を訪ねよう

◆日時 12月23日(木祝) 尾張支部と名古屋支部の合同研修会 & 協議会の日

場所 犬山市(予定)

テーマ 「木曽川の冬鳥」

※上記、「協議会の日」を参照ください。

編集部から

■COP10開催日時が迫ってきました。当会もブース、ステージなどに係わります。みなさん、是非協力ください。

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子
酒井 勇治 永田 孝 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒457-0006
名古屋市南区鳥栖2-6-17
桜本町CH101 近藤 記巳子
TEL / FAX (052)822-7460

■愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会) 事務局(当面)

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2 Tel (0568) 32-5069

松尾 初

■Web Page : <http://naichi.net/>

■郵便振替口座:00820-9-6546 (名義:愛知県自然観察指導員連絡協議会)